

日本労働年鑑 第53集 1983年版
The Labour Year Book of Japan 1983

第二部 労働運動

XI 農民運動

2 主要な農民運動

4 農畜産物政策・価格要求運動

(2) 乳価その他の農畜産物価格運動

乳価共闘会議の運動

乳価共闘(全国乳価共闘会議)は八一年一〇月二一日、衆院第一議員会館で拡大幹事会をひらき、飲用牛乳問題、負債整理対策についての方針を確認、この後、飲用牛乳の乱売是正、負債整理対策の確立、エサ米のホールクロップ利用の転作奨励金交付等について農水省畜産局に要請した。また、この日、同共闘は牛乳の最低保証価格の宣伝、卸売価格の統一、乳業メーカーに宣言乳価の履行をせまる酪農振興対策についてのアピールをだした。

乳価共闘は八二年二月一〇日の拡大幹事会で、加工原料乳保証価格決定期にむけての運動方針を協議、(1)生産者手取り乳価の引き上げ、(2)国内外の過剰要因の除去、(3)牛肉自由化反対、(4)生産資材の引き下げ、(5)負債整理対策の実施などについて農水省に要請、また三月一日、全国代表者会議をひらき、八二年度の全国統一要求乳価(飲用・加工原料乳同一価格)をキロ当たり一二六円以上と決定、農水省に価格・限度数量引き上げ要求行動をおこなった。同共闘は三月一五日、畜産審(畜産振興審議会)総会にむけ、乳価保証価格の引き上げ、限度数量の増量、酪農経営打開策について要請行動を展開、全委員に要請した。ついで三月二三日、田沢農水相に保証価格・基準取引価格の引き上げ、限度数量の拡大を要求、大衆団交をおこなうとともに衆院第一議員会館で「酪農危機突破・乳価要求実現全国酪農民代表者集会」(一〇〇人)をひらき、(1)キロ当たり一二六円以上と全国統一要求、飲用・加工一本乳価など昭和五七年度乳価要求実現等に関する決議、(2)輸入乳製品の削減など生産調整に直結する施策を実施するとともに飲用原料乳価格問題の早期解決に関する決議を採択した。

農水省は三月二五日、畜産審酪農部会を東京・九段の農水省分庁舎でひらき、加工原料乳保証価格キロ五〇銭引き上げ(〇・五%アップ)八九円三七銭と限度数量一九三万トンの据え置きを諮問した。当日、乳価共闘代表者は会場前で乳価引き上げ要請行動を展開したものの、同日、畜産審は「諮問通りやむを得ない」と答申した。三月二六日、加工原料乳保証価格、限度数量ともに政府試算通り決定した。

農民団体共闘畜産対策

全日農・全農総連・全農同・開拓連・出稼連・乳価共闘の農民六団体は中央労農会議参加協力のもとに三月二四日、畜産審食肉部会のひらかれている東京・九段の農水省分庁舎前庭で「農業つ

ぶす農畜産物輸入拡大と行革反対、畜産物価格・政策要求全国農民総決起大会」を開催した。大会には各団体代表八〇〇人が集まり、(1)農畜産物輸入拡大反対に関する決議、(2)農業をつぶす財界主導行革反対に関する決議、(3)畜産物価格・政策要求に関する決議、を採択した。大会後、農水・大蔵・通産の各省、第二臨調・政策推進労組会議・経団連に要請ないし抗議行動をおこなった。とくに経団連には五〇〇人が大挙押しかけ財界行革、農産物輸入策に抗議した。また、畜産審要請行動は二四・二五日の両日、片柳畜産審会長、石川畜産局長、各部会長にむけて展開された。

農業関係団体の畜産対策

日本酪農政治連盟は三月一〇日、東京・麴町の東条会館で「内外圧排除・保証価格等絶対引き上げ全国酪農民総決起大会」(六〇〇人)をひらき、(1)加工原料乳保証価格キロ九八円五四銭以上、限度数量枠二〇二万五〇〇〇トン引き上げならびに政策要求、(2)乳製品・ロングライフ牛乳ならびに牛肉の輸入自由化・枠拡大阻止要求を決議した。大会後、農水省など関係省庁に要請するとともに地元選出国會議員に陳情した。また、同連盟は七月一日、東京・虎ノ門のニッショーホールに全国の酪農民代表一〇〇〇人を集めて「全国酪農民代表者大会」をひらき、(1)飲用向け乳価水準を七八年七月時点に引き上げる、生乳取引正常化・乳価水準回復のための強力な行政指導の実施、(2)バターや偽装乳製品などの輸入絶対阻止を決議、このあと乳業メーカー・国会・農水省に要請した。

全中は三月二〇日、東京・平河町の全共連ビルに農協畜産酪農対策本部を設置、「農畜産物輸入自由化を絶対阻止しよう」、「畜産・酪農経営の安定対策を確立させよう」、「畜産物の要求価格を断固実現させよう」をスローガンに対畜産審要請行動に備えた。ついで二三日から特別運動に入り二六日の畜産物政策価格決定まで連日、三〇〇人程度の代表による要請行動をつづけた。

全日本開拓者連盟(開拓連)・全国開拓農協連・全国畜産政治連盟・全国畜産農協連は三月二三日、東京・赤坂の三会堂ビルで「畜産物輸入拡大阻止・畜産政策確立要求・全国生産者代表大会」(三〇〇人)をひらき、(1)畜産物の輸入自由化阻止ならびに輸入抑制対策、(2)畜産物政策価格、(3)需給調整ならびに経営安定対策、(4)生産基盤強化対策、(5)流通合理化と消費拡大対策、(6)金融対策の強化等の政府要求事項を決議した。大会後、農水省・衆参農水委員長および片柳畜産審会長に要請した。

繭糸価格運動

全養連(全国養蚕農協連合会)は八二年三月九日、東京・有楽町の電機ビルで全国会長会議をひらき、生糸価格決定にむけて、(1)繭、生糸、絹織物等の輸入停止、(2)生糸、絹織物等の需要拡大、(3)再生産可能な繭糸価格の実現と繭糸価格中間安定制度の堅持など政策要求を決定した。全養連など蚕糸関係七団体は東京・九段の九段会館で「蚕糸政策要求全国蚕糸生産者大会」をひらいた。大会には群馬、長野など主産県代表を中心に一五〇〇人が参集、「再生産可能な繭糸価格の実現」、「事業団の在庫を政府の責任で処理せよ」、「二国間協定数量を大幅に圧縮せよ」とのスローガンのもとに繭糸価格、繭糸・生糸・絹織物の輸入停止、生糸・絹織物の需要拡大などの要請事項を決議し、大会後、農水省や各政党に要請行動を展開した。なお、本年の要請内容の特徴は蚕糸事業団の生糸在庫が適正水準になるまで輸入の全面停止を訴えた点にあった。

農水省は三月二六日、蚕糸業振興審議会繭糸価格部会を東京・九段の農水省分庁舎でひらき、五七年度の生糸基準糸価(キロ一万四〇〇〇円)、最低繭価(キロ一九三三円)など、いずれも据え置き諮問をおこなった。当日、全養連代表一〇〇人が審議会にむけて要請行動を展開したものの、

同日、同審議会は据え置きもやむをえない、との答申をおこなった。

畑作物価格要請運動

全農総連は八一年一〇月五日、第一一六回中央委をひらき八一年畑作要請運動方針を協議、テンサイ最低生産者価格トン当たり二万一〇〇〇円、奨励金全額基本価格に織りこむ、馬鈴薯基準価格トン当たり二万二四四二円、サトウキビ、大豆価格は生産費所得補償による再生産可能な価格にすることなどの要求価格を決定、一〇月一四日、東京の九段会館で「畑作中央集会」をひらき、「昭和五六年産畑作農産物の価格引上げ、畑作基本政策確立等に関する要請」を決議、一六日まで農水省交渉など中央要請行動をつづけた。

全中は九月三〇日、甘味資源作物・大豆主産道県農協中央会・経済連会長合同会議をひらき、昨年要求と同じく「適正に所得を補償し再生産が十分確保できる」八一年産甘味資源作物・大豆生産者価格と政策確立に関する要請事項を決定、一〇月一四日、東京・平河町の全国都市会館で「甘味資源作物・大豆主産道県農協代表者集会」(二〇〇人)をひらき、関係国会議員や自民党本部への中央行動を展開した。政府は一〇月一六日、テンサイ、ダイズなどの基準価格をいずれも前年比二・六%のアップに、一〇月三〇日、サトウキビ手取価格二・八%の引き上げを決めた。

日本労働年鑑 第53集 1983年版

発行 1982年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月4日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1983年版(第53集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
